

新燃岳 2011年6月16日に噴出した火山灰粒子

<概要>

2011年6月16日に霧島新燃岳から噴出した火山灰粒子は、4月3日、9日の火山灰に比べて、発泡した粒子（スコリア粒子・軽石粒子）がわずかに増加したものの、全体として構成粒子に大きな変化は見らない。

<記載>

記載した試料は、6月16日18時05分の噴火によって噴出し、宮崎県高原町狭野小学校に降下したもので、翌17日に鹿児島地方気象台によって採取された。構成粒子は最大径0.3mm、大部分は0.15mm以下の細粒の火山灰からなる。乾燥状態では暗灰色を呈する。

6月16日火山灰は、主に発泡の悪いガラス質粒子から構成され、少量の発泡したガラス質粒子（軽石・スコリア）及び岩片からなる。これらの粒子の構成比や個々の粒子の特徴は、2月～4月の噴出物と大きな違いはない。詳細にみると、4月に発生した2回小噴火による噴出物に比べると、発泡したスコリア粒子や軽石粒子がやや増加している。

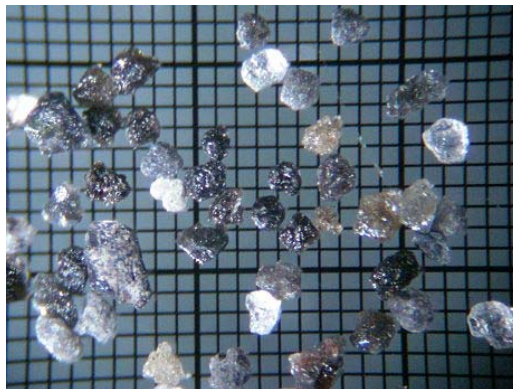


図1 代表的な火山灰粒子像。(グリッドは0.1mm)

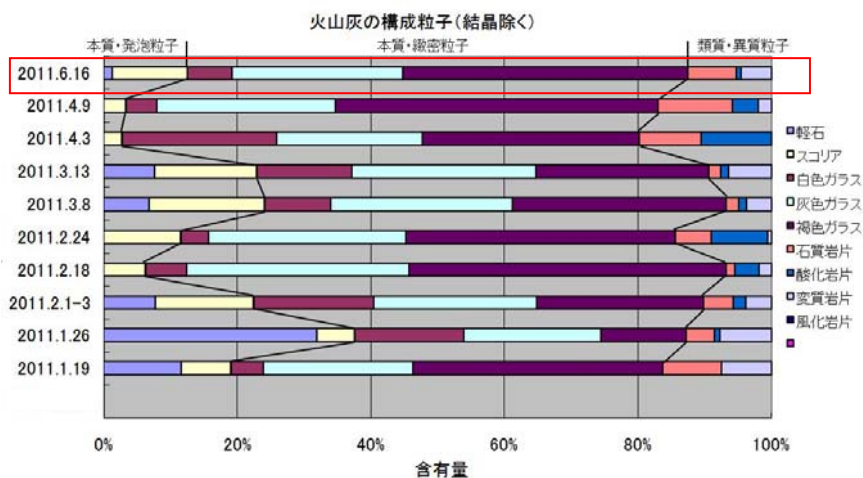


図2 構成粒子比の時間変化。(遊離結晶を除いた粒子の個数比).